

平成18年度「専修学校社会人新キャリアアップ教育推進事業」成果報告書

事業名	子育て後に社会復帰を目指す女性等を対象とした「電子カルテ実務教育」による就職支援		
法人名	学校法人片柳学園		
学校名	日本工学院八王子専門学校		
代表者	理事長 片柳 鴻	担当者 連絡先	医療情報科科长 野田 雅司 TEL 042-637-3111
<p>1. 事業の概要</p> <p>本事業では、本学園が平成17年度「専修学校教育重点支援プラン」で行った「専修学校における電子カルテ技術者スキル標準とカリキュラム開発」事業で開発した教育プログラムを活用し、『子育て後に再就職を目指している主婦』、および『医療分野への転職を希望して勉強中の離職者』等を主な対象とした短期の教育プログラムを実施し、医療機関への就労を希望する者に現場に必要な電子カルテ操作等のITスキルを身に付けさせることによってキャリアアップをはかる。併せて、復帰に際して理解しておくべき医療現場における看護師や医事課職員の仕事の流れ等を再確認し、医療人としての意識を高めることで、現場への復帰を支援する。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>講座を展開するにあたり、再復帰を目指す女性等に対する人材ニーズや就労環境、地域性や採用実績等を調査するため、全国4地域8病院を訪問し、担当者から直接お話しをうかがった。</p> <p>具体的なご意見として、「パソコンが得意でも突発的な休みや一般的なコミュニケーションスキルが不足気味な若年者より、社会経験や子育て経験を持つ主婦のほうが使いやすい」、「小児科で親を安心させるには子育て経験がある者のほうが話題を共有しやすく重宝する」など、子育て後の女性の再チャレンジを歓迎する声が聞かれた。また、医療現場は電子化されていることを前提として復帰してほしいという要望があるなど、今後医療機関への就職を目指す人々にとって、電子カルテ操作スキルは欠かすことができないことがわかった。</p> <p>また、平成18年4月の医療法一部改正、改正薬事法の施行、介護保険制度の改定、診療報酬の改定など関係法規の改正があったため、教材の内容についても実情に合わせて改訂を行うとともに、主婦等を対象とした短期講座用にカリキュラムを作成した。</p> <p>②事業により得られた成果</p>			

講座の目的として、以下の項目を達成することを到達目標とした。

- ・医療現場における各部門の役割を再認識する。
- ・電子カルテ導入以前の業務内容を再確認し、電子カルテ導入に伴い変化した業務内容を理解する。
- ・電子カルテを使っていく上で医療の専門知識をどのように活用するかを理解する。
- ・電子カルテの関連知識（定義、業務の流れ）などを通じ、電子カルテのメリットを理解する。
- ・電子カルテの基本的な操作方法を理解する。
- ・実際に電子カルテを操作し、医療機関や患者の情報により異なる操作方法を理解する。
- ・例題演習を通じ、様々な電子カルテ入力方法を理解する。
- ・実技問題を行い、電子カルテと医事コンピュータの違いを理解する。

実施した教育プログラムは、事前のリサーチにより4回の予定を2日に短縮して実施した。土曜とはいえ4回連続では全日程の参加は難しいという意見が多かったためである。

受講者は、事業実施協力機関等を通じて一般から公募した。八王子校、蒲田校各20名ずつの募集としたが、それぞれ定員に達することができた（ただし、当日の欠席が各校3名あり、最終受講者数は両校合わせて34名）。

目標とする資格が無いため、資格取得実績といった形での達成は無いが、今回の講座を受けて「就職に対する自信がついた」という受講生は34人中23名（67.6%）と全体の3分の2を占めた。また、「自信がない」という受講生は一人もいなかった。このことは、比較的短期間でも電子カルテ操作に対する教育が可能であることを示すとともに、幅広い年齢層が集まった本講座の参加者に対しても有効であったと言える。確かに、電子カルテの操作自体はコンピュータ操作に慣れた者にとってそれほど難しいものではないが、『医療』という人の健康や命に関わる仕事で使われるものであり、正確な操作と気配りが同時に求められる。このことから、今後の電子カルテ教育には、より多くの演習を取り入れる必要があると感じている。

今後、時間と予算が許せば、就職についての追跡調査を行うこととしたい。

③今後の活用

視察で訪問した医療機関において、看護師の不足を訴える声が多数聞かれた。厚生労働省の調査によると、結婚、出産、育児等で離職中の潜在看護師が55万人いると言われており、こうした人々の一部が復帰するだけで人材の不足が解消できるという。夜勤があるなど労働環境の厳しさ、日々進歩し続ける医療技術やカルテの電子化といった病院システムへの対応など、解決するべき様々な要因が考えられるが、そのサポートの一助としても、短期の電子カルテ実務講座を活用していただけるのではないかと考えている。

今回実施した短期教育プログラムであるが、10時間程度の講座であっても、ある程度成果を上げることが可能であることがわかった。しかし、受講者からは演習の時間と量を増やしてほしいという要望もあったため、今後社会人向け電子カルテ実務教育を普及させていくためには、より柔軟に対応できる教育プログラムとして精査・改善した上で普及させていきたい。

④次年度以降における課題・展開

今回の講座では、子育て後の主婦の学習意欲・労働意欲の高さを知ると同時に、学習に対するまとまった時間を捻出するために苦心している様子もわかってきた。講座を2日間に短縮したことで参加しやすくなった反面、もっと演習の時間がほしいという受講生もいる。操作に慣れることが再就職への自信につながるため、今後は基礎知識を学ぶための座学やパソコン基本操作のレクチャーといった集合教育と合わせ、インターネットを活用したe-learningを導入するなど、演習時間を確保するための仕組みや工夫が必要であると感じている。

なお、今回の取り組みは文部科学省委託事業であったため、受講料の心配がなかったことや、4回の計画を2回に短縮したことで参加しやすかったことも事実である。受講者や就職先医療機関の満足度を向上させることと、事業として講座を運営することをいかに両立させていくかが今後の検討課題であるとともに、工夫のしどころであると考えている。

3. 事業の実施に関する項目

①キャリアアップ講座の実施

■講座実施概要

講座名：「電子カルテ実務基礎講座」（土曜集中コース）

対象者：医療業界への就職を目指して勉強中、または就労中の方で、電子カルテ実務を学びたい女性の方。

日程：平成19年1月20日、1月27日（全2回）

時間：各日とも10:00～12:00、13:00～16:00

会場：①日本工学院八王子専門学校（八王子） ②日本工学院専門学校（蒲田）

受講料：無料（ただし、2回とも出席できること）

定員：①、② 各20名

■受講者プロフィール（年齢構成）

	八王子校		蒲田校		全体	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
20歳代	10	58.8%	2	11.8%	12	35.3%
30歳代	6	35.3%	5	29.4%	11	32.4%
40歳代	1	5.9%	5	29.4%	6	17.6%
50歳代	0	0.0%	4	23.5%	4	11.8%
60歳代	0	0.0%	1	5.9%	1	2.9%
合計	17	100.0%	17	100.0%	34	100.0%

*全員女性である

■受講者の反応（講座終了後のアンケートより）

電子カルテの操作はいかがでしたか？

	八王子校		蒲田校		全体	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
簡単	6	35.3%	1	5.9%	7	20.6%
普通	7	41.2%	12	70.6%	19	55.9%
難しい	4	23.5%	4	23.5%	8	23.5%
合計	17	100.0%	17	100.0%	34	100.0%

電子カルテ講座を受講されて、医療機関に就職または再就職する自信がつけましたか？

	八王子校		蒲田校		全体	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
自信がついた	13	76.5%	10	58.8%	23	67.6%
あまり自信はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	4	23.5%	7	41.2%	11	32.4%
合計	17	100.0%	17	100.0%	34	100.0%

今回の学習は有意義でしたか（ためになりましたか）？

	八王子校		蒲田校		全体	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
有意義だった	15	88.2%	13	76.5%	28	82.4%
普通	2	11.8%	3	17.6%	5	14.7%
あまりためにならなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	1	5.9%	1	2.9%
合計	17	100.0%	17	100.0%	34	100.0%

②その他

視察調査によって人材ニーズを明確にしたことで、自信をもって講座を実施することができた。また、教材については平成18年4月に実施された医療関係法規の改正についての修正を行い、完成度を高めることができた。

これらの結果、受講者全体の8割以上から本講座が有意義であったという回答を得ることができた。